

平成31年 1 月23日

伊那市長 白鳥 孝 様

伊那市議会
議長 黒河内 浩

伊那市観光株式会社の経営改善に向けた提言

伊那市観光株式会社は、伊那市から指定管理者の指定を受け多くの施設等を運営していますが、慢性化した赤字経営となっています。さらに今年度は2100万円の補助金を支出する見込みであり、経営の見直しは避けられない危機的状況になっています。各施設は市民の福利厚生的な面を持ち合わせていることは理解しますが、現状での継続は大変厳しい状況と判断します。

以上のことから、伊那市観光株式会社の経営改善に向けて、下記事項を提言します。

記

- 1 多くの施設を抱える中、全体の経営状況を把握し経営の健全化を図ること。
- 2 伊那市観光協会や長野伊那谷観光局等との連携強化に努めること。
- 3 市内宿泊施設については、市民の福利厚生的な位置付けと分けて考える必要がある。今後の施設老朽化に伴う修繕費の増加等も考慮する中、特に多額の赤字経営が続いている入野谷と羽広荘については、伊那市観光株式会社の経営から切り離し、指定管理者の公募や民間への売却、もしくは廃止について検討すること。
- 4 日帰り入浴施設である「みはらしの湯」と「さくらの湯」については、さらなるサービスの向上に努め、入浴客の増加につながる施策を検討すること。
- 5 山小屋については大規模な施設整備も終了しており、今後も登山客の安全確保とさらなるサービスの向上に取り組み、引き続き健全な経営に努めること。
- 6 その他の施設においても赤字経営が続く施設は、あり方について検討すること。
- 7 経営体制の改善を図るため、市長の社長兼務を早期に解消すること。

【 附帯意見 】

(経営全般について)

- ・収入が天候等の影響を受ける施設が多く資金繰りが安定しないため、計画的な経営に課題がある。収入不足分を広告宣伝費等で切り詰めるなど悪循環になっている傾向も見られるため、抜本的な経営体質の見直しと経営改善が必要である。
- ・経営改善に当たっては、徹底的なコスト改善及び売上向上対策等に取り組み、強いリーダーシップの発揮される現場に密着した迅速な経営判断のできる体制づくりを望む。
- ・社員教育の充実を図り丁寧な対応に努められたい。
- ・伊那市観光協会など関係組織との連携が図られていない現状がある。新しく長野伊那谷観光局も設置されたため、関係組織との連携による観光施策の一本化を図り、さらなるPR強化に努められたい。

(宿泊施設について)

- ・仙流荘については赤字経営が続いているものの長谷地区の日帰り入浴施設として存続することとする。ただし、大幅な赤字となっていることを念頭に、さらなる経営改善や山岳観光の拠点となるよう取り組まれたい。
- ・さくらホテルにおいても厳しい経営状況が続いているが、施設改修など投資も行われているため、PR活動を強化し一層の集客に努められたい。

(日帰り入浴施設について)

- ・毎年納められる入湯税は目的税であることから、伊那市観光株式会社の収益増加にもつながるよう、有効活用について考慮されたい。

(山小屋について)

- ・山小屋の管理人との契約に当たっては、安定した経営が行えるよう、現状の1年契約を複数年契約に見直されたい。